

平成29年度 学力向上アクションプラン

区 名	住吉区
学 校 名	大空小学校
学校長名	市場 達朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大空小学校では、第6学年 38名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均無解答率は、国語・算数ともほぼ0%に近く、最後まであきらめずにやり通している。これは本校が育てたい子どもの4つの力（人を大切にする力・自分の考えを持つ力・自分を表現する力・チャレンジする力）を反映した結果と考える。

国語Bや算数Aでの正答数分布図を見ると、いずれも二山現象であり、個人差が大きくなっている。児童質問調査からは、「朝食をとっている」や「家で復習している」などで課題があり、子どもへのケアを充実させていく必要がある。また、規律性や自尊感情については、全国比を大きく上回る結果となり、安心できる居場所づくりの効果の表れと思われる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語A】◇言語についての知識・理解・技能をみる「漢字を読む・書く問題」、話す・聞く能力をみる「互いの話を聞き、考え方の共通点や相違点を整理しながら話し合う問題」についてがんばりが見られます。◆読む能力をみる「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題」、言語についての知識・理解・技能をみる「ことわざの使い方の問題」、「古文の言葉の響きやリズムの問題」に努力が必要です。

【国語B】◇読む・書く能力をみる「具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題」にがんばりが見られます。◆読む能力をみる「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題」や、記述式の「目的や意図に応じ、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題」に努力が必要です。

【算数A】◇数と計算、数量関係の「具体的な場面における乗法の問題」や数量や図形についての知識・理解の「任意単位による測定についての問題」にがんばりが見られます。◆数と計算、数量関係の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」や「商を分数で表す問題」、量と測定の「高さが等しい図形の底辺と面積の関係を理解する問題」に努力が必要です。

【算数B】◇数と計算、数量関係の「料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題」や数量関係の「基準量と割合を基に比較量を考える問題」にがんばりが見られる。◆量と測定、数量関係の「測定値の平均を求める問題」や図形の「基準量と割合を基に、比較量を判断し、その理由を記述する問題」に努力が必要です。

国語の成果では、「言語力や論理的思考の育成」として取り組んでいる「さよならメッセージ」や「全校道徳ワークシート」の効果がみられる。算数の成果では、「ICTを活用した教育の推進」として各教室に設置済みのプロジェクターの活用により、数量関係や量や測定などを視覚的に捉えやすくてきた。国語の課題は自分の考えを伝えることや表現する手立ての工夫が必要である。算数の課題は、数と計算の基本的な計算の反復学習や図形で表された問題の解釈や読みの力を育成する必要がある。

質問紙調査より

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」では、ほぼ90%の児童が肯定的な回答である。これは、「主体的・対話的で深い学びの推進」として取り組む年3回のコンサート活動の成果と捉える。また「自分にはよいところがあると思いますか」では、ほぼ80%の児童が肯定的な回答である。これは、「地域に開かれた学校」として、常に多くの大人に見守られ、認められていることで、児童が安心して自分を出せる環境にあることの結果と考える。「将来の夢や目標を持っていますか」では、90%を超える児童が肯定的な回答である。オープン講座やオープン授業などを通じて、「ふれあいいっぱい ゆめいっぱい」のめざす学校像を引き続き目指す。「学校のきまりを守っていますか」では、95%の児童が肯定的な回答である。これは「たった一つのやくそく」が児童にしっかりと根付いている証拠であり、すべての児童が安心できる居場所づくりのためには、今後も子どもも大人も守り続けていく必要がある。「朝食を毎日食べていますか」や「家で学校の授業の復習をしていますか」などでは、肯定的な回答率が全国と比べてかなり低い。今後も家庭との連携を密にして、学校と家庭がともに子どもを見守ることを大切にしていかなければいけない。

今後の取組

日常の国語学習での漢字の読み書きのスキルを向上させるとともに、読書の啓発や読み聞かせの充実などを進める。学び合いの授業研究を引き続き行い、ペアやグループなど授業形態を臨機応変にして、子どもたちがのびのびと表現する力を伸ばせるような場の設定を工夫する。スピーチ力だけでなく、対話やコミュニケーション能力をのびさせるために、相手の話や書いている内容を理解し、適切な答えを返すなど、日々子ども同士をつなぐ大切にして、「学び合い」の学習をより進化させていく。朝の計算タイムの継続した指導とともに、宿題や復習などの反復学習を徹底していく。また、ICT機器を効果的に使い、よりわかりやすい授業の創造に向けて、実践を積んでいく。さらに、個に応じた指導をするとともに、子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業をつくる。本校は自分が自分の学校をつくっている。この大空の教育が常にぶれないことを子どもの周りの大人が確認し、「たった一つの約束」（自分がされていやなことは人にしない・言わない）を守ること、「4つの力」（人を大切にする・自分の考えを持つ・自分を表現する・チャレンジする）をつけることを大切にしていく。